

(別添4)

【山形県南陽市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本市では、ICT活用授業推進方針の中で児童生徒の「情報活用能力の育成」、「主体的・対話的で深い学びの実現」、「個別最適化された学びの推進」を掲げ、タブレット端末や電子黒板等のICT機器を日常的かつ効果的に活用した授業づくりを推進している。全教職員が児童生徒の資質・能力の育成に向け、学習用タブレット端末等のICT機器やクラウド環境の活用を実践し、子どもの意欲の向上をめざしている。

2. GIGA第1期の総括

1人1台端末を週3回以上活用している学校の割合は、小学校100%（ほぼ毎日83%）、中学校100%（ほぼ毎日33%）である（令和6年度全国学力学習状況調査学校質問紙）。また、授業においても、場面に応じてタブレット等を活用する活動を行っている。自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、小学校83%、中学校100%、自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、小学校50%、中学校33%、教職員と子どもがやりとりする場面では、小学校33%、中学校33%、子ども同士がやりとりする場面では、小学校33%、中学校0%、自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、小学校50%、中学校0%（いずれも令和6年度全国学力学習状況調査学校質問紙における週3回以上と回答した割合）と端末の活用が進む一方、小中の学校間や教職員により活用状況に格差がみられる。教職員が端末の活用のよさを実感し、授業だけでなく教職員研修や会議での端末の活用を進めていくことができるような研修や環境構築が必要である。

そのほかにも、端末の活用が進むにつれ、故障や破損件数が増加し十分な予備機の確保に課題がみられたため、今後は予備機を増やすなどの整備も含め、十分な対策を行う。

3. 1人1台端末の利活用方策

今後、1人1台端末を活用した児童生徒の資質能力の向上に向け、教職員の授業力向上に努める。文部科学省が示す「教育DXに係る当面のKPI」において、「①個別最適・協働的な学びの充実」、「②情報活用能力の向上」、「③学びの保障」、「④働き方改革への寄与」を意識した教職員研修を実施する。特に、「①個別最適・協働的な学びの充実」、「②情報活用能力の向上」のKPIを意識した取り組みを展開していく。

GIGA第1期では、活用頻度の向上に向けて重点的に取り組んできたが、第2期では、活用場面を意識した活用や情報活用能力調査（レベル9段階）を実施する環境整備を行い、目標値を意識した活用を推進する。

◆目標値1（全国学力・学習状況調査 学校質問紙）

以下の活用場面で児童生徒が端末を週3回以上活用する学校

- ① 調べる場面：100%

- ② 発表・表現する場面：100%
- ③ 教職員とやりとりする場面：67%
- ④ 児童生徒同士でやりとりする場面：67%
- ⑤ 理解度等に合わせて課題に取り組む場面：100%

◆目標値2

キーボードによる日本語入力スキル（文字/分）

- ・小学校（6年生）：50 文字
- ・中学校（3年生）：70 文字

授業では、端末の活用を前提とし、児童生徒一人ひとりが他者と協働しながら、自ら学び方を選択し、自立した学びができるよう、授業改善を図る。

不登校児童生徒や障がいのある児童生徒など、多様な児童生徒の学びの保障を行うため、1人1台端末を効果的に活用し、個に合った学び方や学びの機会の提供を行う。